

# 平成28年度施策実施状況の評価

## 【施策3】 コミュニティバス導入スキームの運用 評価案

【施策3】 コミュニティ バス導入 スキーム の運用	実施状況の 検証	指標	運用・検討箇所数
		実施状況	2地区
	モニタリング 指標の変化	指標	運行路線利用者数
		基準値	
		実績値	運用・検討箇所：2地区 ・大沢地区：96,036人(対前年1,704人減) ・大野北地区：71,082人(対前年4,685人増) 合計 167,118人(対前年2,981人増)
	評価(案)	運行中の2路線において、地域が主体となり利用促進に取り組んでおり、移動手段の確保や地域コミュニティの活性化に寄与したと認められる。また、大野北地区においては運行内容を見直した成果も出ており、平成29年度より平日便のみ本格運行へ移行となったことから、さらなる利用促進に取り組むこと。	

# 【施策3】 コミュニティバス導入スキームの運用 参考資料

コミュニティバスせせらぎ号  
(平成18年1月30日運行開始)

大野北地区コミュニティバス  
(平成26年2月1日運行開始)



H29年度9月より車両を更新した。



## 平成28年度 コミュニティバス運行実績

	年間輸送人員	1便当たりの輸送人員	収支比率
せせらぎ号	96,036名	11.4人	53.8%
大野北地区コミュニティバス	71,082名	9.1人	44.5%
運行継続条件	—	10.0人以上	50.0%以上

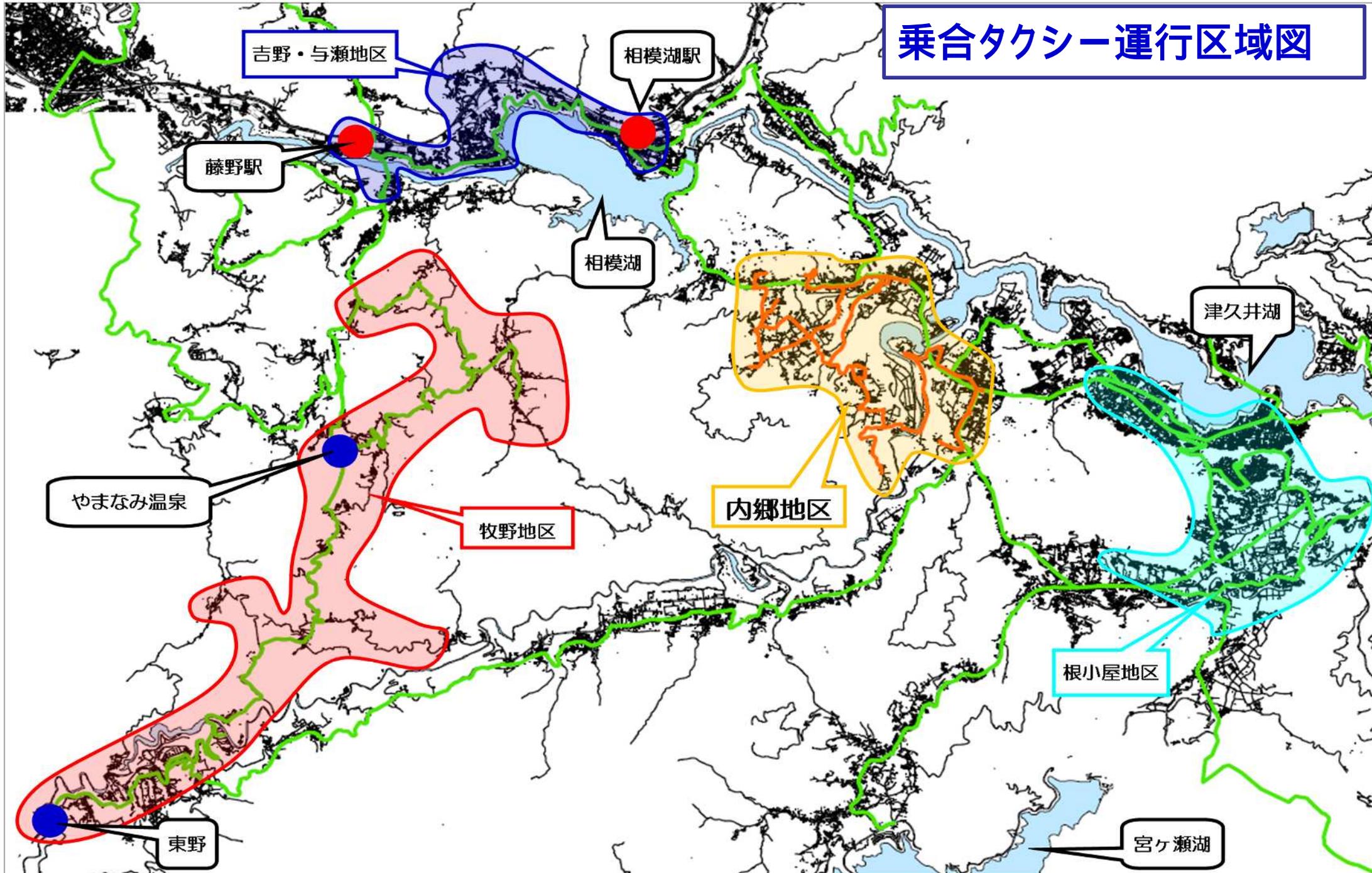
大野北地区コミュニティバスは、平日便が運行継続条件を満たしたため、平成29年度より平日便を本格運行とした。

## 【施策4】 乗合タクシー導入スキームの運用 評価案

【施策4】 乗合タクシー 導入スキームの運用	実施状況の 検証	指標	運用・検討箇所数
		実施状況	4地区
	モニタリング 指標の変化	指標	運行路線利用者数
		基準値	
		実績値	運用検討箇所:4地区
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・内郷地区:4,175人(対前年149人増)</li> <li>・根小屋地区:8,070人(対前年145人減)</li> <li>・吉野・与瀬地区:3,337人(対前年690人増)</li> <li>・牧野地区:1,267人(対前年333人減)</li> </ul>
			合計 16,849人(対前年361人増)
評価(案)	<p>運行中の4地区は、年間利用者数も増えていることから、利用促進に取組み、地域コミュニティの活性化に寄与していると認められる。牧野地区においては、実証運行の結果を踏まえた上で、地域にあった交通を検討することを望む。</p>		

# 【施策4】 乗合タクシー導入スキームの運用 参考資料

## 乗合タクシー運行区域図



## 【施策12】 バスロケーションシステムの機能向上 評価案

【施策12】 バスロケーションシステムの 機能向上	実施状況の 検証	指標	システムの改善有無
		実施状況	システム改善なし
	モニタリング 指標の変化	指標	バスロケーションシステムへの アクセス数
		基準値	2,921人/日
		実績値	月平均651,284人(昨年度比96,313人増) 1日平均21,412人(昨年度比3,216人増)
	評価(案)	平成28年度は、新たなシステム改善は行っていないが、バスロケーションシステムの利用者は年々増加しており、今後はシステム改善等を含め、より利便性を向上させる努力をすることを望む。	

# 【施策12】 バスロケーションシステムの機能向上 参考資料

## 「神奈中バスロケーション」とは

平成17年2月より開始したサービスで、バスにGPS装置を搭載し、バスの位置情報を把握することで、リアルタイムな運行情報を提供するもの。

さらに、バスの近接情報や目的地の到着時刻、バスの到着時間を加味した小田急線との接続案内などを検索することができる。

スマートフォン



パソコン



## 【施策13】 乗り継ぎ割引の設定 評価案

【施策13】 乗り継ぎ割引 の設定	実施状況の 検証	指標	乗り継ぎ割引の新規設定箇所数
		実施状況	新規設定箇所なし
	モニタリング 指標の変化	指標	割引設定箇所における 乗り継ぎ利用者数
		基準値	864人
		実績値	利用者数：101,400人(対前年410人減) 内訳 { IC割引：101,052人(対前年298人減) 乗り継ぎ乗車証割引：348人 (対前年112人減)
	評価(案)	<p>実績は昨年度と比べ減少したが、ICカードでの乗り継ぎ割引の適用は、利用者の利便性向上や乗務員負担の軽減が図られることから、引き続き、他の乗り継ぎポイントでもICカードによる割引適用を実施するとともに、新規設定箇所の選定について検討することを望む。</p>	

# 【施策13】 乗り継ぎ割引の設定 参考資料

相模原市内の一部のバス路線で平成20年11月1日から  
**乗り継ぎ割引**を実施しています。

※この割引は平成15年12月に実施した路線再編にともなう乗り継ぎ負担の軽減を目的としております。

毎度、神奈中・神奈交バスをご利用いただき、誠にありがとうございます。  
 平成20年11月1日(土)より、相模原市内の一部のバス路線で「乗り継ぎ割引」を実施しております。  
 ご利用方法、対象となる「乗り継ぎバス停」、および「乗り継ぎ割引適用系統と区間」は以下の通りとなります。

## 乗り継ぎ対象バス停

- ① 原 当 麻 駅
- ② 北 里 大 学
- ③ 光が丘一丁目
- ④ 上 溝
- ⑤ 小田急相模原駅
- ⑥ 相武台前駅

乗り継ぎ対象となる系統および区間は次ページ以降をご参照下さい。

## 乗り継ぎ割引引き金額

乗り継ぎ後のバスにて、運賃支払時に割引いたします。  
 割引対象は「現金」「回数券」「ICカード(PASMO・Suicaのみ)」となります。※定期券・かなちゃん手形等による乗り継ぎは対象となりません。  
 ※定期券・環境定期券・かなちゃん手形・ちびっこ50円・敬老の日100円は割引対象外です。

- 大 人 100円引き(深夜バス 200円引き)
- 小 児 50円引き(深夜バス 100円引き)
- 大人障がい者 50円引き(深夜バス 100円引き)
- 小児障がい者 30円引き(深夜バス 50円引き)

ICカードをご利用のお客様は、  
 乗務員の機器操作後に  
 タッチをお願いします。

## ご利用方法

乗り継ぎバス停で降車の際、乗務員にお申し出ください。乗り継ぎ乗車証を発行いたします。  
 乗り継ぎ乗車証は乗り継ぎ後のバスでの運賃支払の際、乗務員が回収いたします。

## 乗り継ぎ乗車証



平成15年のバス路線の再編により、乗り継ぎが発生した路線について、乗り継ぎ負担の軽減を図るため、平成20年11月1日から乗り継ぎ割引が実施された。

実施方法は、乗り継ぎ割引の対象系統・乗り継ぎポイントとなるバス停を定め、1台目のバス降車時に運転手に申し出て「乗り継ぎ乗車証」をもらい(通常運賃を支払い)、2台目のバス降車時に「乗り継ぎ乗車証」を提出して、割引かれた運賃を支払うもの。

田名バスターミナルでのバス乗り継ぎ割引  
 田名バスターミナルで1時間以内にバスを乗り継ぐ場合は、Suica(スイカ)・PASMO(パスモ)使用時に限り、乗り継いだバスでの支払時に一律100円(小児・障害者は50円)が割引引きされる。

## 【施策24】 啓発講座等の実施 評価案

【施策24】 啓発講座等 の実施	実施状況の 検証	指標	啓発活動実施回数
		実施状況	バス事業者と協力し、大野北地区において、児童及びその保護者を対象としたバス乗り方教室を開催した(平成28年9月11日) 大野北市民まつりでバスの展示を行った(平成28年10月16日)
	モニタリング 指標の変化	指標	利用方法、運行意義の理解度
		基準値	アンケートの実施
		実績値	乗り方教室参加者(99人)を対象として、1家族1票(32票)回収 理解度:役に立った 93.1% 今までより利用する 50.0%
	評価(案)	乗り方教室等の実施により、利用方法の周知やバス利用意識を高めることができた。他地区においても施策を展開する等、継続的な啓発活動に取り組むこと。	

# 【施策24】 啓発講座等の実施 参考資料

平成28年9月11日 バス乗り方教室の実施 (yフェスティバルにて実施)



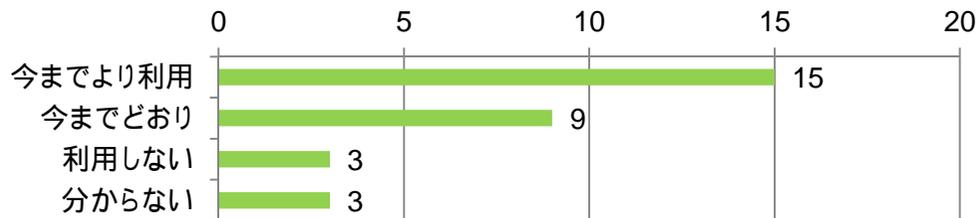
路線バスの乗り方や車内マナーに関する説明を通じて、路線バスを身近に感じてもらうとともに、公共交通の役割・必要性について考えてもらうことを目的とした、モビリティ・マネジメント推進事業の一環として実施した。(99の方が参加)

アンケート結果の例

乗り方教室は役に立ったか



今後、今までよりバスを利用するか 回答者数 = 30



平成28年10月16日  
バス車両の展示 (大野北市民まつりにて実施)



## 【施策28】 ノンステップバスの導入 評価案

【施策28】 ノンステップ バスの導入	実施状況の 検証	指標	ノンステップバスの導入の有無
		実施状況	市内の営業所において、ノンステップバス11台が導入された。
	モニタリング 指標の変化	指標	ノンステップバス導入台数
		基準値	
		実績値	<p>11台導入</p> <p>ワンステップバス ノンステップバス10台                      ノンステップバス ノンステップバス1台</p> <p>平成29年6月30日現在の導入率                      72台 / 239台(30.1%)</p>
	評価(案)	<p>国及び市の補助制度を活用して11台導入したことにより、当初の目標値であった導入率30.0%に到達した。</p> <p>平成28年度に成果指標を見直し、70.0%に上方修正したことから、引き続き導入促進に取り組むことを望む。</p>	

## 【施策28】 ノンステップバスの導入 参考資料

ノンステップバス … 出入り口の段差を解消して乗降性を高めた低床バス



平成29年6月30日現在の市内各営業所の導入状況

ノンステップバス 72台  
 総車両台数 239台  
 導入率 30.1%

市内の営業所におけるノンステップバス車両数の推移

時 点	ノンステップバス車両数	全車両数	割合
H24.4.1	34	251	13.5%
H25.4.1	40	235	17.0%
H26.4.1	43	237	18.1%
H27.4.1	50	237	21.1%
H28.4.1	62	236	26.3%
H29.4.1	66	238	27.7%
H29.6.30	72	239	30.1%

平成28年度分については、国の補助金の施策が変わったことから導入が遅れ、平成29年6月末に全ての車両が導入されたため、6月末時点での台数としている。

平成29年度分導入予定台数 16台  
 市補助予定台数 7台

内訳

ノンステップバス→ノンステップバス 5台  
 ワンステップバス→ノンステップバス 11台